

- ・ 創造する生徒
- ・ 心豊かな生徒
- ・ 鍛える生徒

## 「泣いた赤鬼」

校長 佐藤和男

大宮西中の生徒は本当に素晴らしい！このような思いになれるのも、日頃からご家庭で支えてくださっている保護者や、子どもたちの安全や健全育成のために、学校を常に温かく見守って下さり、ご支援・ご協力を頂いている地域の皆様のおかげです。さらに、日々、子ども達のために朝早くから夜遅くまで頑張っている、教職員の事も忘れることはできません。

この思いを改めて実感したのは、5月19日（木）から21日（土）の2泊3日で実施した京都・奈良方面の3年生修学旅行でした。お陰様で、3日間を通して大きな事故もなく目的を十分達成することができました。旅行中、実行委員や班長、室長を中心に計画通りにスケジュールを進め、アクシデントにも良く考えて対応し、行動していました。さすが、学校をリードする3年生だなど、子どもたちの頑張りに改めて感心しました。そしてこの旅行の最中でも、「話し合い」「協力し合い」「励まし合い」「学び合う」等の「あい」のあふれる活動が様々な場面で展開されました。誠にうれしい限りです。



さて、6月は、さいたま市教育委員会が設定している「いじめ撲滅強化月間」です。市立の全小・中・高等・特別支援学校において、いじめの問題について考え、いじめが起きない学校を作ろうとする意識を高めます。その中で、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育む取組の充実を図るなど、いじめの未然防止に向けた取組を推進します。私は、この取組に先立ち、5月26日の朝礼で全校生徒に「いじめ撲滅」に関する講話を行いました。その中で、「泣いた赤鬼」という短い物語を朗読しました。子どもたちは、あまり上手でない私の朗読に対してとても静かに、そして真剣に耳を傾けてくれました。この物語は、人間と仲良くしたい赤鬼に、友達の青鬼が赤鬼のために自分が悪者になってその願いを叶えてあげるといってお話です。朗読後に「青鬼の思いやりやその思いやりに涙して感謝する赤鬼の姿のように、私たちも、思いやりを大切にして、西中全体でいじめにつながる言葉や行動をなくしていこう。」と、呼びかけました。いじめは、人が人に対して行うものです。ですから、絶対に減らすことができるはず。もし、無意識のうちにいじめをしている人がいたとすれば、気付かせなければいけません。今後も、いじめが無い学校を目指し、家庭・地域と協力し、粘り強く取組んでいきたいと思っております。

話は変わり、6月4日（土）からは、3年生にとっては最後の公式戦となる、さいたま市中学校総合体育大会がはじまります。この大会は、県大会、関東大会、全国大会につながる重要な大会です。また、3年生にとっては最後の公式試合になります。先日、全校生徒が体育館に集まり、壮行会を行いました。各部活動の部長が、今までの成果を十分に発揮し全力で大会に臨む決意を公表してくれました。どの部活動も日頃の練習成果が発揮できるような、大いなる健闘を祈りたいと思っております。

また、6月18日（土）には、本校の体育祭が予定されています。各クラスで応援旗の作成や大縄跳びの練習が始まっています。どのクラスも縄跳びはまだたくさん跳ぶことができない様子ですが、本番は練習の成果を發揮して、全員で声を掛け合い、心を一つにして良い記録が出るのではないかと期待しています。

体育祭当日は是非、保護者や地域の皆様から子どもたちの一杯の競技や演技に対して大きなご声援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。